

都市環境学部

授業成績評価について

2008. 2. 22

都市環境学部(教授会)

相対評価を導入した目的

- 大学において「学生の授業成績を適正かつ適切に評価」することは、大学の社会に対する義務である。
- 従来、首都大学東京では「絶対評価」による成績評価を行っている。

成績表示	証明書表示	単位	100点法	GPA
5	優	○	90~	4.0
4	優	○	80~	3.0
3	良	○	70~	2.0
2	可	○	60~	1.0
1	非表示	×	~59	0.0
0	非表示	×	—	0.0

都市環境学部の成績評価の原則

- ① 履修科目の特質などに照らして「最も適切な形式」で成績を採点する。
- ② 科目の成績評価は、形式によらず絶対評価でおこなう。
- ③ 単位修得の可否は、上記の採点に基づき、絶対評価で行う。
- ④ 単位修得者の成績評価は、受講生が相当数以上の科目では、別表に示した比率構成を参考に行う。

成績評価・表示の原則

成績採点	単位認定	成績表示	構成比率	備考
絶対評価による採点	合格 (単位修得)	5 (優)	10 %	単位修得者を100%として
		4 (優)	30 %	
		3 (良)	50 %	
		2 (可)	10 %	
	不合格	1 (不可)	—	—
非履修	非採点	0	—	—

都市環境学部の成績評価の原則

- ⑤ 履修者の少ない科目は、別表の比率構成を参照しつつ、適正かつ適切に評価する。
- ⑥ 成績評価の形式(試験、レポートなど)については、採点結果が正規分布になるように工夫する。
- ⑦ 成績評価は、履修学生の授業への出席を前提とする。欠席や遅刻の程度によっては、期末受験やレポートの提出等を認めないことがある。
- ⑧ GPAの計測には、履修登録した全ての科目の成績評価(0.0~4.0)によって算出される。

相対評価のポイント

- 無理矢理「相対評価」をするのではなく、学生の成績が正規分布するように(成績の差が明確になるように)、成績評価の方法を工夫することにある。
- 学生の向学意欲を高め、「成績向上の努力が適切に評価できる仕組み」を目指しているものである。